

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: R6年 3月 1日

事業所名: NPO法人J-pal デイPOP

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		多種多様な遊びが出来るように空間を分けて使っている。	
	2	職員の配置数は適切である	○	○	出席人数に対応できるような人員配置や他部署からヘルプを頼んでいる	運転スタッフが足りていない。また、スタッフの休みの関係で安定した配置が難しい。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○	○	本人が理解しやすい環境設定を行い対応している	定期的な見直しを行い、安全が保てられる環境を継続していく。車いす利用者も受け入れ出来る様、エレベーターの稼働も視野に入れる。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		日々室内消毒等を行い、清潔で安全な環境にしている	定期的な生活空間を見直し、子どもたちが心地よく過ごせるように環境整備を行っていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		アンケートやヒアリング等にて、業務改善に努めている	継続して、様々な意見やニーズを把握し、改善に取り組む
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		当ホームページにて公表している	公表結果に基づき、見直しや改善を行っていく
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	第三者による外部評価を行っていない	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		定期的に研修を実施している	継続して研修を行い、職員のスキルアップを図る。また、個人的に休みをとり、研修を受けミーティングで話している。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		面談や様子・課題点など、様々な視点から考慮し、計画を立てている	ニーズや課題等を把握・分析を行い、支援計画に反映していく
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		日々の活動を通し、アセスメントに反映している	活動など状況把握に努め、アセスメントに反映していく
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		職員全員にて様々な活動を組み立てている	1人の職員に負担をかけず、全員が月1~2回程プログラムの担当をしていく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		定期的に子どもたちとプログラムの内容を話し合っている	プログラムがマンネリ化しないよう子どもの意見も取り入れつつプログラムを立てている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		季節や人数、希望等に応じて、設定している	個別や集団での希望や課題など把握し、対応していく
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		状況に応じて、組み合わせ合わせた計画を作成している	継続して様々な視点や状況を通し、サービス計画を作成する
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		日々のミーティングにて確認し、職員全体にて共有できるよう行っている	継続して、業務内容の確認や共有、連絡等を行っていく
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		職員により就業時間の差がある為、翌日のミーティングにて行っている	全員が周知できるよう、翌日のミーティングや振り返りノートで情報を共有していく。兼務しているスタッフがいてるため、後日伝えるようにしている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		日誌での記録と共に、支援の検証を行っている	記録の不備が無いよう、日々確認していく
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		定期的なモニタリングにて、計画の見直しを行っている	定期的な計画の見直しを行い、計画や支援に繋げていく
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	○		基本的な活動を組み合わせさせた支援を行っている	ガイドラインを基に、継続して支援へ反映させていく

関係機関 や保護者との 連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		状況に合わせて、適切なスタッフが参画している	職員が把握していけるよう、様々な形で参画していく
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		定期的に情報共有を行っている	継続して、学校行事や下校時間の確認、個別ケース等の情報共有などを、定期的に行っていく
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○	服薬が必要なお子さんには親御さんから許可をいただき対応している。	該当する利用者は現在いない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○	就学前の情報は、保護者より行っている	必要に応じ、情報共有や相互理解に努める
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		状況に応じ、担当者会議等での情報共有に努めている	継続して、移行する事業所との情報共有に努める
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		法人研修として、定期的に行っている	継続して、様々な関係機関と連携し、定期的に研修を行う
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	今年度は餅つきを開催することで近隣との子どもと多少だけ交流できた。	近隣に放課後児童クラブ・児童館が現在はないので交流が出来ていない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○	子ども部会発足の為、平野区で放課後等連絡会を定期的に行っている。	現在、平野区には子ども部会がない。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時や連絡帳、電話や面談等にて対応している	日々の状況や変化、課題や相談など、密に連絡を行い保護者との共通理解を深めていく
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		状況に応じ、支援を行っている	しっかりと支援ができるように、スタッフの質の向上を図る	
保護者への 説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時や必要に応じ対応している	説明不足等が無いよう、丁寧に対応していく
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		随時対応できるよう体制を整え、対応している	相談がしやすい環境設定を確立させていく
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	法人内でのフリートークに参加してる方も数名いる。	現状、必要とする利用者がいない為、保護者会は開催していない。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		随時対応できるよう、迅速に対応している	対応に不備が無いよう、適切に対応していく
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		ホームページ等にて、情報を発信している	不備や発信漏れ等が無いよう、対応していく
	35	個人情報に十分注意している	○		十分に留意し、管理を行っている	継続して、個人情報の取り扱いに留意していく
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		状況に応じ、適切に配慮している	継続して、配慮した対応を行う
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		法人内のイベントではチラシ等を配布している。	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	緊急時・感染症等マニュアルにて周知している	不備や発信漏れ等が無いよう、対応していく
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	定期的に訓練を行っている	訓練を通し、非常時に対応できるよう見直しを図る
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	定期的に研修を行っている	定期的に研修を開催し、適切に対応していく
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○	対象者は居ないが、必要な場合は、十分な説明の上、対応していく	必要な場合は十分な説明と計画へ反映し、対応していく
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	保護者と連絡確認を行うなど、対応している	不備がないか、変化がないかなど、都度確認し対応していく
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	都度、共有及び再発防止に取り組んでいる	継続して、情報の共有及び再発防止に努めていく